

3. 実践行動学プログラムで効果が得られた点を具体的にご記入ください。数値データ等がありましたらご紹介ください。

| |
|--|
| <p>・年々人間関係の構築が難しくなっているが、退学者は1名のみで退学率は0.5%に抑えることができた。また、毎年就職率は100%だが、専門領域への就職率は85.7%で安定した結果となった。</p> |
| <p>・他学科、他コースと同時に実施し、様々な考えの学生達とディスカッションを行うことができた。「普段話せない人達と沢山話す機会ができ、とても楽しかった」という感想が多く、退学防止に繋がっているように思われる。</p> |
| <p>・春休み期間でも積極的に就職活動への取り組みが見られ、3月で1名、4月で5名の内定が出て、よいスタートが切れた。</p> |
| <p>・今年度はオンライン授業からスタートしたこともあり、対面授業開始後のクラス内のコミュニケーションを図るのに効果的であった。学生からも、グループワーク等で話せたことで親密度が上がると共に価値観の幅が広がったという声が聞かれた。</p> |
| <p>・学生間のコミュニケーションが増えた。目標に向けて取り組む姿勢が変化し、日々の授業において意欲・取り組む姿勢が向上したように感じる。</p> |
| <p>・オンライン授業が長く続いたこともあり、対面でのディスカッションは学生たちにとってコミュニケーションを培うための大切な時間となった。</p> |
| <p>・本年度はコロナ禍の影響で学生同士の交流が少なかったため、貴重な交流・学習の場となった。</p> |
| <p>・グループワークを行うことで、各学生のモチベーションの向上や気分の切り替えに大変効果的だった。面接の志望動機など、自身を見つめ直すのに役立った。</p> |
| <p>・クラスメイトとの親交を深めるために非常に有用であると感じた。また、他者と意見を交わすことで自分が持っていない価値観を知る助けとなり、キャリア教育の一環にもなった。実践行動学の各種個人作業において、自身の気付いていなかった性格や特徴の言語化を行うことができるようになり、就職活動時の自己PRの整理ができた。（就職意識が向上していると感じた。）</p> |
| <p>・遅刻や欠席がほとんどなく、学生全員が揃った授業を現在も行えている。また学習態度も向上している。</p> |
| <p>・入学直後からオンライン授業だったため、学生間の交流がない状態が長かった。対面授業を開始してすぐに実践行動学を実施したことで、お互いの気持ちや考え方を知ることにつながったと思う。心配していた緊張感がすぐに解けて、学生間の雰囲気は瞬く間に良くなったように感じ取れた。</p> |
| <p>・実践行動学を初年次から実施することで、検定試験合格に向け明確な目標を立て達成することができた。</p> |
| <p>・自己肯定感の低い学生が、今後の学生生活・就職活動に向けて自分を見つめ直し、客観的に自分を見ることで自己分析を深められた。それに伴い遅刻・欠席が減少した。</p> |
| <p>・入学したばかりの学生の動機づけに有効であった。話を聴く姿勢、考える、話し合う、まとめるなどアクティブラーニング教材としても良い教材だと思う。モチベーション自己診断では、実施後は学習意欲が高まっていた。話し合いの場で友達になったり、コミュニケーションにも有効であると思われる。</p> |
| <p>・クラスのコミュニケーションが図れることが大きい。お互いに共有することで関係を築くことができ、クラス内でのルール決め（話の聞き方、時間管理、発表者への拍手等）を統一する機会となることで、この後のクラス運営がスムーズに展開される。</p> |
| <p>・目標がより明確になり、頑張って勉強していこうという思いに繋がった。グループワーク等を通じ、コミュニケーション力の向上や色々な人がいることを学生が受け入れられるようになった。</p> |
| <p>・自分から積極的に発言しない学生もリーダーの役割が回ってくることで、リーダーシップをとり発言する機会を得ることができた。</p> |
| <p>・一年生には目標を自ら書かせることをより明確に意識させ、学校生活や授業の意義を理解させるのに役立っている。</p> |
| <p>・指導する教員側にも気づきを与えてもらう効果があるように思う。</p> |